



歴史ニュース



News-Letter NO.14

発行日 2005年2月1日
発行 飯田市歴史研究所
〒395-0002
長野県飯田市上郷飯沼3145
電話 0265-53-4670
ファクシミリ 0265-21-1173
E-mail iuhr@city.iida.nagano.jp

史料の所在調査をはじめます

飯田・下伊那地域には、地域の歴史を知るための史料が多く残されてきました。しかし代替わりや近年の地域の変化などによって、それら貴重な史料の廃棄・流出という事態が進行しつつあります。

できるだけ多くの史料を残し後世に受け継いでいくためには、現時点で地域の内外にどのような史料が残されているか、所在情報をきちんと記録しリストを作成しておかなければなりません。

歴史研究所では、地域に残されている史料をより多く、より良く保存・活用していくことを目指して、本格的な所在調査をはじめます。



昭和36年頃の扇町界隈

データを利用した活動も積極的に進めていきます

この調査で得たデータは、史料の整理・目録作成や、建造物調査、聞き取り調査などの活動に生かしていきます。また、調査をしながら、機会を設けて報告会や中間学習会を行います。

地域の方々と、どのようなものが重要な史料なのか、史料からどんなことがわかるのかを学習しあうのが目的です。新たな史料の所在についての情報交換も行いたいと思います。

どなたでも楽しみながら歴史に興味を持てるように計画しています。詳しくは随時お知らせいたしますので、お気軽にご参加ください。

調査の進め方

対象地域は飯田下伊那全域ですが、細かく実態を把握するため、複数の地区ブロックに分け、順に集中調査を行います。

まず、橋南・橋北・東野地区を対象に、計画を立て、集中調査を実施します。

調査から活用までの流れ

情報収集



地域のみなさんから史料の所在についての情報をいただき、研究所職員が調査します。あわせて、過去の調査記録や研究成果をもとに、史料が残っている可能性のあるところを調査します。

データカード作成



史料の所有者ごとにデータカードを作り、保管場所や保存状態、現時点までの伝来過程などをできるだけ詳しく記録します。これまでの調査経過についても、所蔵者の方や実際に調査をなさった方からお話をうかがいます。

公開用データ作成



調査で得たデータは、プライバシーなどに配慮しながら、広く地域のみなさんが利用できるように整理・公開します。

身近にあるものも史料です

史料というと、和紙に筆で書かれたようないかにも古い文書をイメージしがちです。しかし歴史研究所では、調査対象とする史料を、なるべく現在に近いものまで含めて考えています。今から何百年も後の時代には、現代の記録もれっきとした史料になるからです。

記録写真や文書だけでなく、みなさんが日常生活の中で何気なくふれているものも、実は史料となるのです。ふだんよく目にするチラシ。長年つけていた家計簿や日記。親しい人との手紙。それらの中には、その人が生きた時代の地域の様子を伝える情報がつまっています。

学校のノートや作文から、授業の内容だけでなく、子どもの目から見た当時の社会の様子がわかる場合もあります。スナップ写真から、当時の人たちの服装や、まちなみを知ることできます。

歴史を知る材料となるものは、身近なところにあふれているのです。

座光寺史料調査会

座光寺史学会や地域の皆さんと一緒に、座光寺の麻績史料館に保管されている史料の整理・目録作成を行っています。

歴史研究所では、座光寺の麻績史料館に保管されている史料の整理・目録作成を行っています。座光寺史学会の方たちをはじめ地域の皆さんのご協力を得て、昨年11月から作業を開始しました。

麻績史料館には、座光寺村で保存されてきた近世史料をはじめ、座光寺村役場時代の史料、消防会・軍人会関係の史料、自治会関係史料など、この地域の歴史を知るために欠かせない大切な史料がたくさん保管されています。

まず座光寺村役場関係史料の整理作業から取りかかることにしました。文書が入った箱を1つずつ開き、以前に作成された「文書保存台帳」と文書の表題を照合します。その後、1点ずつ目録カードを作成し、史料

の内容がわかるようにします。地域に関わるどんな史料があるのか、史料を読めばどんなことがわかるのか。直接史料に触れることで、少しでも地域の歴史に関心を持っていただきたいと思います。

現在は、1回あたり参加者7～8人という状況で、文書を手にとりじっくりと読みつつ、楽しく作業をしています。これからは座光寺地域の内外の皆さんに広く呼びかけて、ひとりでも多くの方と一緒に続けていきたいと思っています。

作業は毎月2回程度のペースで進めています(日時はお問い合わせください)。「何をやっているのかな?」と興味をお持ちになった方、どうぞお気軽にお越しください。

2月の調査予定

2月5日(土) 午後2時～
(座光寺地区文化祭に合わせて行います)

2月23日(水) 午前9時～



史料調査の様子

歴研ゼミナールだより

歴研ゼミナールは、実践的に歴史研究の方法を学ぶゼミ形式の講座です。各ゼミの最近の様子をお伝えします。

近世史	1月11日	研究報告「近世地域における農業と国学思想」	現代史 (英語文献)	“The Globalization of World Politics” (Smith & Baylis, 2001) の講読	
	1月25日	『下伊那の特殊産業』「製紙」を読む。		12月8日	Globalization and Its Precursors
近現代史	12月9日	第2次聞き取り調査計画	12月22日	Globalization : Myth or Reality?	
	1月13日	第1次調査報告書編集作業	1月5日	A Globalizing World	
	1月27日	”	1月19日	The Qualifications of Globalization	

ゼミ紹介

現代史ゼミ

テーマは「グローバルゼミ」

現在起こっている世界規模の変動を説明するのに、「グローバルゼミ」の「グローバルゼミ」という言葉がしばしば使われます。しかしこの言葉は、独り歩きをしている状態で、論者によってさまざまな意味で使われています。

このゼミでは、「グローバルゼミ」に関連するいくつかの論点を紹介、整理することによって、この変化に対する理解を深めています。ひとつの答えを教えるのではなく、問題となっている論点を示し、参加者個々人がこの問題について理解を深める土台をつくるのが目的です。

地域研究とグローバルゼミの関係

「グローバルゼミ」という言葉でくくられる現象は、この飯田にも影響を与えています。地域社会を理解するには、この言葉で称される現象をひとつずつ、解きほぐしていく必要があるのでしょうか。

特に、外国籍の人が人口の3%近くを占める飯田では、住民の相互理解を促進するうえで、必要なことだと考えています。

また、幕末開港以降、この地域は生糸の輸出を通じて世界市場へとかわつてきます。その結果、養蚕バブルとその崩壊、満洲移民・ブラジル移民へと繋がっていくのです。この地域の近現代史を理解するうえで、世界市場とのかわりは避けられないのです。

英語の文献を読む理由

英語で文献を読む理由として、英語圏における日本研究のレベルの上昇があります。近現代史においては、英語圏の日本研究の動向を無視できなくなってきました。飯田下伊那地域をとりあげ、日本の地方の形成を論じたカレン・ウイガンの“The Making of a Japanese Periphery”も重要な著作です。

ゼミ参加者は多彩な顔ぶれ

10代から70代の方まで、高校生、主婦、服飾デザイナーなど幅広い方がゼミに参加しています。

(鬼塚博・研究員)

★ゼミ生は随時募集しています。興味のある方は歴史研究所へお気軽にお問合せください。

近世史ゼミ：隔週火曜日 午後7時～

現代史ゼミ：隔週水曜日 午後7時～

近現代史ゼミ：隔週木曜日 午後7時～

ジュニアゼミ：隔週土曜日 午前10時～

月例研究会

月に1度スタッフが研究内容を報告し、自由な意見交換を行っています。興味のある方は気軽にご参加ください。事前の申込みは必要ありません。

2月の月例研究会

1950年代農村社会の変貌 — 竜丘村新農村建設計画を中心に —

- ◆日時 2月19日(土) 午後2時～4時
- ◆報告者 森 武麿 (一橋大学教授/歴史研究所顧問研究員)
- ◆内容 戦後改革から高度成長に至る1950年代の農村の変貌を、下伊那郡竜丘村を事例として明らかにしたい。とりわけ経営改善と生活改善を課題として展開された積雪寒冷単作地帯農業振興事業から新農村建設計画に至る村の歴史を追ってみたい。

会場 いずれも歴史研究所研修室で行います。
(市役所上郷庁舎2階)

3月の月例研究会

中国帰国者の語りを聞き取ること — 「語りの磁場」を中心に —

- ◆日時 3月12日(土) 午後2時～4時
- ◆報告者 蘭 信三 (京都大学助教授/歴史研究所顧問研究員)
- ◆内容 中国帰国者の語りは、個々人の体験によって様々である。だが、そこにはある共通するストーリー(モデル・ストーリー)がある。たとえば、最近の裁判をめぐっては「棄民の物語」が中心であり、80年代の頃には「望郷の語り」が中心であった。なぜなら、その語りは、もちろん体験によるものだが、語りがおかれている「語りの磁場」によっても強く規定されるからだ。この点を中心としながら、中国帰国者が「残留」体験や帰国体験を語るこの意味を複眼的に考察することの意義を考えていきたい。

歴史研究活動助成

研究発表会

歴史研究所では個人や団体の歴史研究活動に対して助成を行っています。平成16年度に助成対象となっている方々による研究発表会を開催します。

- ◆日時 3月19日(土) 午前9時～
- ◆場所 上郷公民館 103号室

※当日発表を行わない研究もあります。詳細は事前にお問い合わせください。(問合せ先:歴史研究所)

助成申請研究

- 「伊那谷の峠」記録作成
- その著「木曾のお伝馬」を通して見る日下部新一の近世下伊那郡農民に注ぐ眼差し—信州(特に飯田を中心とする地域)の近代化における柳田民俗学の関与と、その後の影響について
- 伊那における平田国学の伝達作用の諸相
- 日本のナショナリズムとその基底
- 1930-50年代下伊那地方における農村社会運動の展開
- 長野県飯田市の都市構造の近代化—長姫橋築造工事を中心として

歴史を生かした景観づくり

美しいまちづくり、景観づくりにはその土地に育まれた歴史や自然との調和が欠かせません。今後の景観づくりの参考にしていただき、関心を持っていただくため景観講演会を開催します。多くの方にご参加いただき、地域の景観を見直す機会としていただきたいと思います。

- ◆日時 2月7日(月) 午後1時30分～4時
 - 第1部 飯伊地域景観賞表彰式
 - 第2部 講演会
 - ◆場所 県合同庁舎 3階 講堂
 - ◆主催 飯伊地域景観推進会議
 - ◆共催 飯田市歴史研究所
 - ◆後援 (財)長野県建築住宅センター下伊那支所
 - ◆問合せ 下伊那地方事務所建築課 電話 0265(53)0433
- ※事前の申込は不要です。誰でも自由に参加できます。



講師/伊藤 毅

1952年京都市生まれ。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授。歴史研究所顧問研究員。

景観講演会

2月7日

聞き書き報告集③ 下伊那のなかの満洲

全国でもっとも多く多くの移民を「満洲」へ送りだした下伊那地域。その背景、実態は文字史料だけでは明らかにできません。「満蒙開拓を語りつぐ会」は帰国者から聞き書きを行い、その成果を記録として保存していく活動を行っています。

今回6人の聞き取りを収録した「下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集③」を発行します。

※完売しました第1・2集の増刷も予定しています。

3月15日発行

満蒙開拓を語りつぐ会編
飯田市歴史研究所発行
定価500円/B5判

子ども向け出版企画 わたしたちの飯田線

飯田線は長野県辰野町から愛知県豊橋市までを結ぶ全長195.7キロの鉄道です。

電車は山の中をいくつもの鉄橋やトンネルをわたり走っています。こんな山の中をだれが何のために鉄道を通そうとしたのでしょうか？飯田線の歴史や、人びととの関わり、飯田線周辺の自然など、飯田線の魅力を親しみやすい文章と豊富な写真でお届けします。

3月末日発行

吉田忠正著
飯田市歴史研究所監修
B5判/オールカラー
対象：小学4年生～

歴研日誌 12月・1月

12月

- 3日 上久堅支所文書の移管
- 8日 現代史ゼミ
- 9日 座光寺史料調査会・近現代史ゼミ
- 11日 月例研究会「明治中期の小学校と町村一高等科設置関係史料から一」(多和田真理子)南信州新聞『伊那谷の歴史16「地域の歴史を考える」』掲載(鬼塚博)
- 15日 いいだFM「伊那自由大学について」放送(清水迪夫)
- 16日 下久堅農協資料見学・聞き取り
- 18日・19日 飯田アカデミア第7講座「都市化と農村ー東京の近郊ー」を開催。講師は奥須磨子さん(和光大学助教授)
- 21日 座光寺史料調査会
- 22日 現代史ゼミ
- 25日 南信州新聞『伊那谷の歴史17「地域史料の所在を網羅的に調べます」』掲載(多和田雅保)

1月

- 5日 現代史ゼミ
- 9日 歴史的建造物調査(市内下久堅)
- 11日 近世史ゼミ
- 13日 桐生正治さん聞き取り
座光寺史料調査会
近現代史ゼミ
- 19日 いいだFM「地域の歴史を考える」放送(鬼塚博)現代史ゼミ
- 21日 史料研究ノート(前澤健)
- 22日 南信州新聞『伊那谷の歴史18「明治中期の校舎問題」』掲載(多和田真)
- 22日・23日 飯田アカデミア第8講座「古代の科野・御野と王権ー古代の地域史研究の方法と史料学研究の役割ー」を開催。講師は田島公さん(東大史料編纂所助教授・顧問研究員)
- 25日 近世史ゼミ
- 27日 座光寺史料調査会
近現代史ゼミ
- 29日 月例研究会「地域女子青年団の思想と行動」(大串潤児)

2月・3月のスケジュール

2005年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	英 ²	3	4	5
6	7	近 ⁸	9	現 ¹⁰	11	Jr ¹²
13	14	15	英 ¹⁶	17	18	月 ¹⁹
20	21	近 ²²	23	現 ²⁴	25	Jr ²⁶
27	28					

2005年 3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	英 ²	3	4	5
6	7	近 ⁸	9	現 ¹⁰	11	Jr ¹²
13	14	15	英 ¹⁶	17	18	助 ¹⁹
20	21	近 ²²	23	現 ²⁴	25	Jr ²⁶
27	28	29	英 ³⁰	31		

□ 開所日 □ 休所日

月 …月例研究会
助 …助成研究発表会

近 …近世史ゼミ
現 …近現代史ゼミ
Jr …ジュニアゼミ
英 …英語でよむ現代史ゼミ

開所時間 午前9時～午後5時
休所日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

